

2025 年 2 月 21 日

ワンビルの空間を象徴的に彩り、訪れる人に驚きや楽しみを提供

ONE FUKUOKA BLDG.で展開する アート作品 126 点が決定！

西日本鉄道(株)(福岡市博多区、代表取締役社長執行役員 林田浩一)が、天神ビッグバンエリアにおいて 4 月 24 日(木)に開業する大型複合ビル『ONE FUKUOKA BLDG.(以下、ワンビル)』館内に設置するアート 126 作品についてお知らせいたします。

ワンビルの随所に、新進気鋭の作家から国内外で活躍するアーティストまで、多彩で魅力あふれる作品を設置します。ワンビルの開発コンセプト“創造交差点”の体現の一環として、都市のクリエイティビティ向上に寄与するとともに、ワンビル利用者はもちろん、天神にお越しになる皆さまに日常的にアートに触れていただく機会を創出します。アートがもつ自由な発想や柔軟な視点、豊かな空間づくりを育むことで、ワンビルから天神、そして福岡全体におけるアートの機運がさらに高まるよう取り組んでまいります。

■ 各フロアのアート作品について

商業フロアやスカイロビー、ホテルなど、各フロアのコンセプトに基づいて様々なアートを設置。新たなアーティストの発掘・育成にも積極的に取り組み、アーティストとの協業や、共創によるプロジェクトも複数進行。ビル全体でアートに触れる接点を増やします。

| アーティスト数 21名
| 作品数 126作品

※2025 年 2 月 21 日発表時点の数字です

※アーティスト総数:企業・団体としての参加は 1 名とカウントしています

■B2-5F 商業フロア

商業フロアには福岡にゆかりのあるアーティストとして、鹿児島 睦 氏、Soh Souen 氏、Toyameg 氏、大西 康明 氏の作品を展開。多様な表現を用いて、日常の中で身近にアートに触れる機会を創出し、活気ある空間を演出します。



鹿児島 睦 氏 作品一部



Toyameg 氏 過去作品
©Toyameg



Soh Souen 氏 過去作品
©Soh Souen



大西康明氏 過去作品
©Yasuaki Onishi

■6F SKY LOBBY

ワンビルでは、未来を共に作っていく若手アーティストを積極的に登用します。スカイロビーには、大小島 真木 氏、クニト 氏によるスケールの大きな立体作品を展開※。見る人にエネルギーを与えると共に、気づきや刺激によって私たちの想像力をぐっと拡張させる、「創造交差点」を象徴するスカイロビーに相応しい作品となっています。カンファレンスのエントランスには、Kishiro Sumita 氏によるアートを設置。ライブ感があり、明るい色調のアートで、カンファレンスホールでの新たな出会いや交流を後押しします。



大小島 真木 氏
©Maki Ohkojima Photo by Serge Koutchinsky



クニト 氏 過去作品



Kishiro Sumita 氏 作品
©Kishiro Sumita

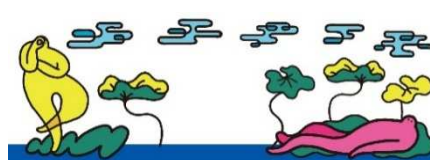
※スカイロビーに展開の大小島 真木 氏とクニト 氏の作品は、東京・青山の複合文化施設を拠点として活動するアートセンター「SPIRAL」との協業。「SPIRAL」はワンビル3F にショップ・カフェ・ギャラリーを出店

■7F CIC Fukuoka

アメリカ発のイノベーションキャンパス「CIC Fukuoka」のエントランスには福岡の伝統工芸品「大川組子」を採用※¹。繊細でデザイン性の高い障子や欄間などを製作する組子職人・志岐 浩実(七代目利右衛門) 氏のアート作品が出迎えます。また、区画内の4壁面にそれぞれ異なる 4 人のアーティストによる、ウォールアートプロジェクト※²も実施されます。



志岐 浩実 氏 作品



白川 千佳 氏 作品イメージ
©Chika Shirakawa



小宮 貴一郎 氏 作品イメージ
©Kiichiro Komiya



Marumiyama 氏 作品イメージ
©Marumiyama



仁太郎 氏 作品イメージ

※¹福岡県の「伝統工芸品おもてなし空間創出事業費補助金」による支援も受け導入

※²福岡市が運営する、アーティストがさまざまな場所や分野で活動するためのサポート・成長・交流拠点「Artist Cafe Fukuoka」との協業

■1F・18F・19F ONE FUKUOKA HOTEL

舘鼻 則孝 氏の新作のアート作品約 80 点が登場するほか、初めて福岡・天神を訪れる人はもちろん、愛着をもつ地元の人にも楽しめるよう、福ビル外観モチーフや天神コアの意匠を使用するなど、継承や新しい視点を取り入れ、天神 1 丁目である場所の存在意義を再定義できるような仕掛けに。八女の和紙などの伝統工芸や福岡のアーティスト、写真家による作品も多数登場します。



舘鼻 則孝 氏 作品イメージ一部
©NORITAKA TATEHANA STUDIO



Studio PARKER 作品イメージ
八女の和紙に NIC※のゼブラ柄を、福ビルのタイルをスタンプして柄をつくった作品

※1966 年～1999 年に福ビルに入居していた岩田屋と西鉄の共同出資による総合インテリアショップ。

■広場

天神交差点に面した北西側広場には、Nicolai Bergmann(ニコライ・バーグマン) 氏の天神に縁のある梅の花をモチーフにした 12m×約 8mの大規模壁面緑化アートが、福博であい通りに面した南西側広場には、Leandro Erlich(レアンドロ・エルリッヒ) 氏の”現実の自然界”と”身の回りに存在するバーチャル”を組み合わせ、現代を象徴するピクセル型の葉で構成された”木”を模したアートが登場し、道行く人を楽しませてくれます。



Nicolai Bergmann 氏 作品写真



Leandro Erlich 氏 作品イメージ
©Leandro Erlich Studio

ワンビルでは、今回公開したアート作品をはじめ、今後も新たなアーティストや作品を展開していく予定です。

ワンビルの開業にあわせて SPIRAL と共創で「アートうごめく！Wonder Garden」を開催！

ワンビルは SPIRAL と共創することで、より多くの人の日々の暮らしにおける多彩なアートとの接点づくりを行い、新たな発見やクリエイティブな刺激を生み出すきっかけを提供したいと考えています。その最初の取り組みとして、アートファンだけでなく、はじめてアートに出会う方々にも開かれた親しみやすいコンテンツとなる展覧会「アートうごめく！Wonder Garden」を開催いたします。

植物や動物をモチーフにした作品や、生命の躍動や循環を感じさせるような作品などをご紹介します。春に芽吹く植物や命みなぎる生物と出会った時のように、楽しい発見と新鮮な驚きに溢れたアートの庭を体感できます。

「アートうごめく！Wonder Garden」



村山 大明 氏《森Ⅱ》



川上 和歌子 氏《ピコとピータ》(2024)

撮影：山下大輔

会期：【3F】2025 年 4 月 24 日(木)～5 月 25 日(日)
【6F】2025 年 4 月 24 日(木)～5 月 11 日(日)

会場：【3F】SPIRAL GARDEN
【6F】ONE FUKUOKA CONFERENCE HALL
PRESENTATION ROOM1

出展予定作家：池平徹兵、大小島真木、川上和歌子、北奥美帆、鈴木康広、村山大明、横手太紀 ほか

【参考】天神ビッグバンについて



規制緩和等を活用して民間ビルの建替えを促進することで、天神地区に新たな空間と雇用を創出するプロジェクト。国家戦略特区により航空法高さ制限の緩和を獲得した機を逃すことなく、様々な施策を組み合わせることで、耐震性が高い先進的なビルに建替えるとともに、水辺や緑、文化芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりに取り組むもの。なお、天神ビッグバンエリア(天神交差点から半径約 500m)の建築確認申請件数は73件となっている。

(天神ビッグバン開始後の 2015 年 2 月～2024 年 3 月末)



ワンビル公式 Instagram アカウント、公式 LINE アカウントはこちらからご確認いただけます。



Instagram:

<https://www.instagram.com/onefukuokabldg.official>



LINE: <https://lin.ee/QvBjISd>

西鉄オンラインマガジン「N× エヌカケル」で関連記事を紹介しています！ぜひご覧ください！

①【西鉄がワンビルで実現する福岡のまちづくりとアート【対談】 陶芸家・アーティスト鹿児島睦さん】

詳しくはこちら→ <https://nnr-nx.jp/article/detail/172>



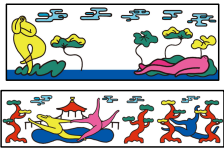
②【西鉄・ワンビルのアートとまちづくり レアンドロ・エルリッヒさん ニコライ・バーグマンさん】

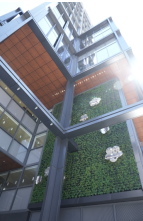
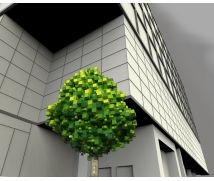
詳しくはこちら→ <https://nnr-nx.jp/article/detail/177>



本件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター（TEL:050-3616-2150）まで

No.	作品イメージ	アーティスト名	アーティスト名カナ表記	作品名	作品名カナ表記	フロア	設置場所	作品説明	備考
1	 ※作品の一部	鹿児島 睦	カゴシマ マコト	Mi volas paroli	ミ ヴォラス パロリ	B2～4F	館内エスカレーターホール 壁面	館内地下2階～地上4階のエスカレーター横の壁面を舞台にした、道しるべとなる象嵌(ぞうがん)アートタイル作品。水中や陸上の多様な生物が訪れる人々を楽しげに出迎えます。	コーディネート： FACT
2	 ※過去の作品	Soh Souen	ソー・ソウエン	tieCOM.2501(仮)	タイシーオーエム.2501	2F	商業フロア 共用部	証明写真をピクセルに分解し点描の手法で制作されたシリーズ作品です。この作品では、自己(描かれた対象)を他者(小さな色面)の集合体と捉え、無数の抽象的な小さな色面の集合体で構成されており、他者(鑑賞者)が作品と一定の物理的な距離を確保することにより、個々の色彩が結合し対象(証明写真)のイメージが出現します。また、鑑賞者の心理的距離によっても、作品に描かれた対象のイメージは変容します。tieシリーズは、自己(描かれた対象)と他者(鑑賞者)の複雑な関係性について焦点があてられています。	
3	 ※過去の作品	Toyameg	トーヤメグ	TENJIN MOSAIC	テンジン モザイク	4F	商業フロア 共用部	天神の交差点で繰り広げられる多様な出会いを描いた作品です。人や動物、そして国籍問わない老若男女が交じり合い、明るく元気な福岡の活気を表現しました。	コーディネート： sponge／ザ・ムース
4	 ※過去の作品	大西 康明	オオニシ ヤスアキ	境の石 天神	サカイノイシ テンジン	4F	商業フロア 共用部	河原の石を銅箔で型取り、空間に配置する作品です。都市の建築の表と裏の境界部分に山や洞窟のようにも見える透過した風景が現れます。	
5	 ©Maki Ohkojima Photo by Serge Koutchinsky	大小島 真木	オオコジマ マキ	《鯨の目》シリーズ ・海の血 / Blood of the sea ・新作1点	《クジラノメ》シリーズ ・ウミノチ / ブラッドオブザシー	6F	SKY LOBBY 共用部	大小島真木の代表作《鯨の目》シリーズの一作。命をめぐる豊かな世界を巨大な鯨の姿に描き出した本作は、見る人にエネルギーを与えると共に、「地球」という生態系で共に生きるとはどういうことかを考えさせます。	コーディネート： SPIRAL ※2作品 新作の公開日は調整中
6	 ※過去の作品	クニト	クニト	《焼成隕石》シリーズ	《ショウセイインセキ》シリーズ	6F	SKY LOBBY 共用部	宇宙から粘土が落ちてきたら大気圏突入時の温度でやきものになるのでは？という着想から生まれた、スケールの大きな立体作品。遥か彼方の宇宙に思いを馳せる、ダイナミックな視点をお楽しみください。	コーディネート： SPIRAL
7	 ©Kishiro Sumita	Kishiro Sumita	スミタ キシロウ	Behind the street	ビハインド ザ ストリート	6F	ONE FUKUOKA CONFERENCE HALL 入口	一筆で勢いよく描いた線を組み合わせて制作しました。 天神という街が将来に向かってますます発展していく希望を表現するものです。 また「グラフィティや書道も、大きく言えばそれぞれ自国の文字を使った表現であることには変わらないが、文字という形態から離れた場合の美しさは言語の壁や世代を超えていけるのではないか」と自分は考えています。 またこのシリーズではペンやマーカーで「とめ」「はね」「はらい」のような文字の要素を抽出して、それをキャンパスに書き起こす試みを続けています。	
8	 ※過去の作品	湊屋 七代目 利右衛門 志岐浩実	ミナトヤ シチダイメ リエモン シキヒロミ	唯一逸品作り 博多献上組子	ユイツイツピンツクリ ハカタケンジョウクミコ	7F	CIC Fukuoka エントランス	古代五色献上を中国の思想『仁・義・礼・智・信』五常を自然木材の尾州檜の紅と白・朴の緑・黒檀の黒・パープルハートの紫で表現。博多献上柄二種、縦縞文様の一つ親子縞は『親が子供を守る』。もう一つは孝行縞は『子が親を慕う』。中央の菱連続文様は独鈷華皿は『煩惱を打ち砕く』を取り入れ。 又、博多献上帯は一度結んだら解け難く年を重ねる程馴染み愛されると言い伝えられえおり、このプロジェクトに相応しく思い創意工夫させて頂きました。	※2作品

No.	作品イメージ	アーティスト名	アーティスト名カナ表記	作品名	作品名カナ表記	フロア	設置場所	作品説明	備考
9	 ©Chika Shirakawa	白川 千佳	シラカワ チカ	ゆるやかに遊ぶ	ユルヤカニアソブ	7F	CIC Fukuoka フロア内	2つの壁面は空間のテーマである大濠公園でくつろぐ様子と人々が交わり踊る様子を表現し、緩やかな中にも楽しさが溢れる。カラフルなキャラクターは枠にとられない多様性を表し、さまざまな人々が交流する様子を表現している。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
10	 ©Kiichiro Komiya	小宮 貴一郎	コミヤ キイチロウ	ハチクマと船と街の盆景画	ハチクマトフネトマチノボンケイガ	7F	CIC Fukuoka フロア内	盆栽に似たミニチュア制作の手本として江戸時代に普及した盆景画の様式を借り、この場所に関わる方々へ敬意と期待を込めて制作しました。中央はハチクマという渡り鳥で、ワンビルに寄り添う形で配置をしました。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
11	 ©Marumiyen	Marumiyen	マルミヤン	CIC FUKUOKA EMAKIMONO	シーアイシー フクオカ エマキモノ	7F	CIC Fukuoka フロア内	過去から未来へと続く流れを絵巻物形式で表現。多様なアイコンが調和して繋がり、新たな価値が創出される様子を描く。中心の木は新たな命(イノベーション)を象徴していて、地域と世界を繋ぐ役割を表現した。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
12		仁太郎	ジンタロウ	『起点』	『キテン』	7F	CIC Fukuoka フロア内	CICそして、福岡という場所から生まれる独自のエネルギーと、そこから広がる大きな流れを壁いっぱいに描かれた渦で表現しました。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
13	 ©NORITAKA TATEHANA STUDIO	舘鼻 則孝	タテハナ ノリタカ	-	-	18-19F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室内他	福岡・天神の中心地「ONE FUKUOKA HOTEL」のコンセプトキーワード「天神さま」を体現する79点の作品を客室やロビーなどに設置。「装飾品ではなく、ホテルの要素の一部となるアート」を目指して、HOTEL開業にあわせて新規制作。	※79作品
14	-	Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	1F	THE CAFE by ONE FUKUOKA HOTEL	八女の和紙を染めて作ったアートに、折り目を付けて屏風上に凸凹を付けた作品。ビルの外装やコンセプトを連想するようなグリッドと交差を表現。	※2作品
15	 ※過去の作品	Sander Patelski	サンダー・パテルスキー	-	-	1F	THE CAFE by ONE FUKUOKA HOTEL	アムステルダムを拠点とするアーティストによるコミッションワーク。この地にあった福岡ビル、天神コアの外観をモチーフとしたアート。明治通りに面すホテル直営のカフェに展示、この地に愛着を持つ地元の方々にも楽しんでいただけます。	コーディネート: Studio PARKER
16	-	Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	1F	THE CAFE by ONE FUKUOKA HOTEL	福岡・八女の和紙を染色し、ダイナミックに配色したアート。カラーチャートは太宰府天満宮の文献からピックアップ。幾層にもレイヤードされた和紙が、さまざまな色を生み出し、交差する。	※5作品

No.	作品イメージ	アーティスト名	アーティスト名カナ表記	作品名	作品名カナ表記	フロア	設置場所	作品説明	備考
17		Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	1F	ONE FUKUOKA HOTEL エレベーターホール壁面	鉄鋼の街でもある福岡。鉄工所から出た切り板の残材を重ね合わせ、立体的なビルの外観を思わせるアート。立体的な構成の陰影が落とし込まれる。	※4作品
18		Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	18F	ONE FUKUOKA HOTEL ライブラリーラウンジ	旧福岡ビルに居を構え、福岡・九州の住文化を牽引していたインテリアショップNICのゼブラ柄をオマージュ。実際に福ビルの壁に貼ってあった凹凸のあるタイルをスタンプ。	※3作品
19		針金洋介	ハリガネヨウスケ	-	-	18F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室前廊下	「西日本一のデラックスビル」と呼ばれた旧福ビルのファサードや内装を記録した、針金洋介氏撮影の写真をギャラリー風に展示します。	※10作品
20	 ※過去の作品	Jinie Park	ジニーパーク	-	-	18F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室前廊下	韓国アーティストJinie Parkの作品を展示。ビルコンセプトから「アジアと福岡の創造交差点」を表現。	※2作品
21		古川吉重	フルカワヨシシゲ	Sound	サウンド	19F	ONE FUKUOKA HOTEL レストラン	福岡出身でNYで晩年を過ごした、福岡を代表するアーティスト、古川吉重のアートを4連で設置。Soundというタイトルのこのアートは、並んでみると、それぞれのアートが音を奏でているバンドのようで、どこかにぎやかですが、心地よさもあり、活気のあるアートです。	
22		矢賀部恭子	やかべきょうこ	-	-	19F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室前廊下	八女の和紙を染めて織り込んだ、八女在住のアーティストによる作品。太宰府天満宮の文献からピックアップしたカラーチャートから3色で展開。	※3作品
23		Nicolai Bergmann	ニコライ・バーグマン	Future Bloom	フューチャー プルーム	1F	北西側広場	天神交差点のランドマークとなる、約12m×約8mの大規模な壁面緑化とアートのコラボレーション作品。福岡や天神にゆかりのある梅の花を、大小さまざまなステンレスでモダンに表現します。	
24	 ©Leandro Erlich Studio	Leandro Erlich	レアンドロ・エルリッヒ	Pixel Tree	ピクセル ツリー	1F	南西側広場	”現実の自然界”と”身の回りに存在するバーチャル”を組み合わせた、現代を象徴する作品です。ピクセル型の葉で構成された”木”を模したアートが、福博でい通りの入口の広場を彩ります。	コーディネート： ArtTank (小平悦子/近藤俊郎)